



日本ベンジャミン人間性英才学校
Japan Benjamin School for Character Education

Mother Tree

～人間性英才の森を育む人たち～

【保護者インタビュー】小林雅子さん

今回は日本ベンジャミン人間性英才学校の一期生、小林由季さんと奈津希さんの母である小林雅子さんに、ベンジャミン学校での成長や卒業後の様子についてお話を伺いました。

●由季さんに関して

現在大学4年生で就活中です。由季は自信がなく、自分で決めることが苦手な子でした。最初の子で私が口を出しすぎてしまっていたのでしよう。しかし、子どもたちがベンジャミン学校でお世話になっていて、一方で、私自身も脳教育のトレーニングを受け、子どもに対する過剰な心配や執着を手放せるようになりました。失敗してもいいじゃない、自分たちで選んだなら黙って見ていてあげよう、と思えるようになったのです。就活に関して一切口を出さず、由季も何も相談してきませんでしたが。最近になって彼女が選択したことを聞いた時、あなたが決めたならいいんじゃないかと伝えると彼女自身も「認めてもらえて嬉しー」と言ってくれました。

●奈津希さんに関して

知識は一杯あっても人と交流することが苦手な、特定のひとしかコミュニケーションを図ろうとしない自己完結型の子でした。ベンジャミン学校ではいろんな人と接し、体験することで、人間関係を広げることが出来ました。奈津希は今、能の部活に夢中ですが、それでもリーダー的な存在となっています。夢中になれるものを見つけたことも良かったと思います。

小林さんは「親子の意思疎通が良くなったのが一番の財産」と言います。最後に、後輩の保護者の方々へのアドバイスをお願いします。

「我慢することも大事ですね。ベンジャミン学校に入ったからといって、すぐに結果は出ません。自由意志を尊重することと放任は違います。放ったらかしているわけではないんだよ、と伝えることも必要です。正直な話、娘達も最初は何をしても良いのか分からず、不安になっていました。せつかく一年休学してベンジャミン学校に入ったのに！といった不平不満もたくさんありました。そんな時は娘達の不満をまるごと受け止めてあげます。しかし、一緒に愚痴を言ってしまったら終わりです。温かく見守りながら、自分たちの意志を待つてあげる、そんなことが必要なのではないかと思えます」

胸に響くお話をありがとうございます。



▲奈津季さん、雅子さん、由季さん

【開催報告】

6月10日 関東茶話会

生憎の雨でしたが、緑美しい日比谷公園のカフェに、3名の保護者と4名の担当講師が集いました。子どもの話をする前に、まず自分を語る時間を持ち、お互いを知る時間を持ちました。その後、今急成長中のジョシユアくんの話や岩崎さんから聞いて、「心を見てくれた、というジョシユアくんの言葉がすごい！」と高取さん。「色々と感じる子ですね」と瀬野尾さん。そして感じる子ほど生きにくい世の中だという話に：：：そんな感じやすい子も、日々の体力鍛錬で体と心の力をつけ、wsで心開いて自信を持てるようになるのがベンジャミン学校ですね！親子の話では、親の心の在り様が子どもたちに影響を与えているのを皆さん感じていらつしやるようでした。流石、ベンジャミンお母さん！です。我が子が何考えているのかわからなくなる思春期、勉強以外のことで子どもを支える大人が周りにいることへの安堵感が皆さんのお話から伝わってきました。また、家では見られない外での様子を聞いたことも、良かったようです。ふと「一人の子を育

★ベンジャミン・オンライン講座
【思春期の脳について】
日時..7/11(水) 21:30
講師..田中ゆかり先生
この講座は、元々、ベンジャミン学校担任講師のための講座として始めましたが、保護者の方達にも有益な内容ということで、現在はECO賛助会員(5口以上)の方に公開しております。お申込みは、ベンジャミン学校担当講師まで。

てるには、ひとつの町全体の協力が必要」という韓国ベンジャミン人間性英才学校のキムナオク校長先生のことばを思い出しました。



▲茶話会の様子
地球市民村でベンジャミン学校の生徒が人間性を大きく育てていけるように、これから皆で力を合わせていきましょう！

品川校長先生からのメッセージ

「確かに、素晴らしいし必要な教育だと思ふ。勉強だけでなく、人間的な力を高める教育は：と、日本ベンジャミン人間性英才学校について、そのように言ったあと「でも、今ではそのような教育の重要性は認識されてきているし、様々なものもあるのでは：と」といったご意見を私に伝えて下さった方がいました。このような声に対して、私達のベンジャミン学校の価値をどのようにに伝えたらよいのか、その一つの試みがこのPTA会報です。保護者の方々の生の声を通して、生徒達の人間性の成長をお伝えし、未来の人材に必要な教育について共に学ぶ、様々な交流の機会を育てていきたいと思ふます。

